

付着生物ラーバ情報

洋上籠洗浄は異常貝の状況を 確認しながら行いましょう

1 ラーバ等の出現状況

2月20日のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称:ハナ)

ラーバは見られていません(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称:コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で18.9個体/m³、川内沖で271.9個体/m³見られました(図3)。

(3) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)、アミクサ(海藻、通称クサ)

クラゲ、小枝は見られていません。

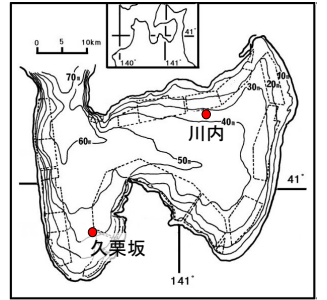


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラホヤ	キヌマトイガイ	ムサキイガイ	単位:個体/m ³	
						オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
久栗坂沖	R2.2.20	0.0	0.0	18.9	32.8	0.0	0.0
川内沖	R2.2.20	0.0	0.0	271.9	67.2	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温は5~9℃台と平年よりかなり高めからはなはだ高めになっています。

(1) ユウレイボヤ

ラーバの出現が終息し、累積ラーバ数は久栗坂沖で12.8個体/m³、川内沖で2.4個体/m³となっています。

西湾では、秋に大量付着したユウレイボヤの産卵により、**冬季も多くのラーバが出現したことから、春の付着量がさらになくなる**可能性があります。

(2) キヌマトイガイ

ラーバが継続して出現していることから、今後、**籠や耳吊り、マボヤ採苗器への付着が増加**すると思われます。

(3) アミクサ、オベリア類

小枝とクラゲは3月まで出現する可能性があります。

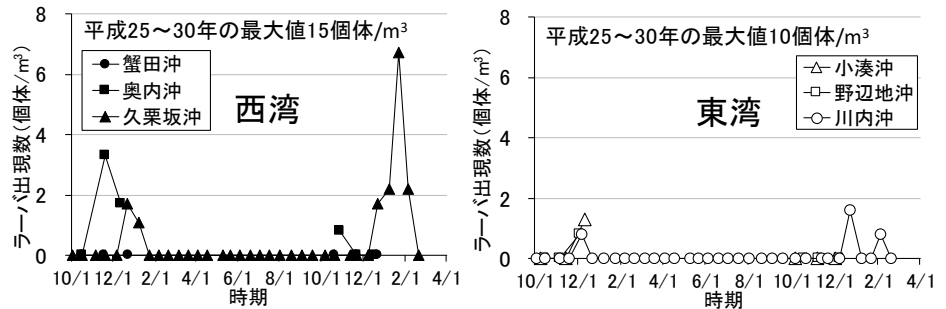


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成30年10月~令和2年2月)

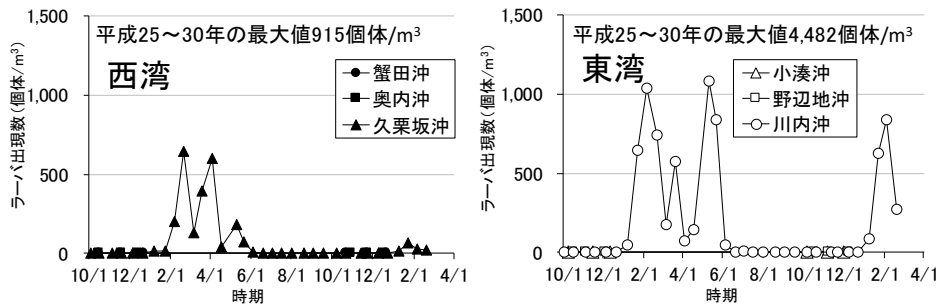


図3 キヌマトイガイ出現数の推移(平成30年10月~令和2年2月)

3 洋上籠洗浄の注意点

ホタテガイに**異常貝が多く見られる場合、洋上籠洗浄を行うことにより、さらに異常貝が増え、へい死する危険性があります**(図4)。

洋上籠洗浄は異常貝の状況を確認しながら行いましょう。また、**作業はホタテガイが凍結しないように暖かい日に行うように**しましょう。

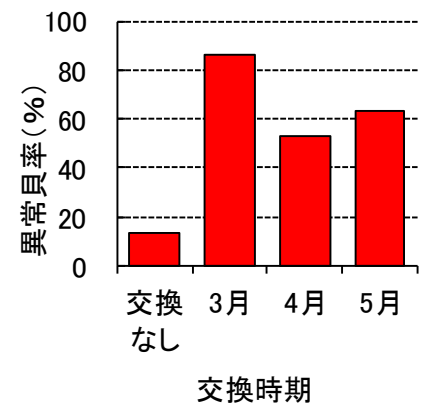


図4 付着物除去を目的としたネット交換によるホタテガイの異常貝率(西湾で平成29年6月測定)